



ジュニアオリンピックカップ 第45回全日本高校ボウリング選手権

8月16~18日
川崎グランドボウル

男子 吉原正明選手が 逆転で連覇

女子 稲福心衣奈選手は 独走の初V

第45回全日本高校ボウリング選手権大会が、8月16日から3日間、神奈川県・川崎グランドボウルを会場に行われ、男子134、女子75選手が高校ナンバーワンの座を目指したが、男子は両手投げの吉原正明選手(埼玉県立川越西高3年)が、2年時に続く連覇を達成、女子はサウスポーの稲福心衣奈選手(沖縄県立中部商業高3年)がぶっちぎりで初の選手権者に輝いた。(主催:(公財)全日本ボウリング協会)



男子優勝・吉原正明

女子優勝・稲福心衣奈

「バイト先のボウリング場でも、この大会のコンディションをひいて練習をさせてくれるなど、協力してもらった。その練習のなかでボールのラインアップを考えて臨んだが、うまくはまってくれた。予選はレーンが難しく感じたけど、順位はそれほど悪くなかったので、いつもどおりの投球をすればいけると思った。連覇は素直にうれしい」

「今回はたまたまレーンが自分に合っていて、しかも左投げがあまりいなかったの、ほとんどラインを変えずに投げられた。中学選手権で男女とも沖縄の子が優勝して、高校でも沖縄の誰かが優勝したらいいなと思ったけど、まさか自分が…、高校最後の年なので入賞したいぐらいの気持ちだったので、びっくりです」

男子 決勝で順位が変動

男子はA、Bシフトに分かれ予選9Gを投球、上位28名を決勝に選出した。

サウスポーの妹背聡海選手(大阪・興国高)が、予選1回戦で717を打ってスタートダッシュを決めれば、2回戦では左両手投げの熊渡汰選手(福岡県立香椎高)が727を叩いてトップを奪う。3回戦で674を打った妹背選手がトータル2015の1位で決勝に進出、熊選手は12ピン差の2位、さらに1ピン差で佐藤晃介選手(千葉商科大学付属高)が続くなど、混戦となっていた。

決勝では予選上位の3選手がいずれもスコアメイクに苦しむなか、1位の妹背選手から53ピン差の5位で決勝に進んだ吉原正明選手が、1G目256、さらに2G目も245を打ってトップを奪うと、最終Gは「ちょっと優勝を意識してかんだけど、よくピンが絡んでくれた」と209にまとめ、トータル2662で選手権



▲決勝で鮮やかな逆転優勝の吉原選手

者に輝いた。前年度はコロナ禍の影響で8月に実施できず、全日本中学選手権や全国小学生大会とともに今年1月に行われたが、その大会を2年生で制して、2連覇となった。

熊選手が決勝は581と伸び

悩んだが、2584で予選の順位を守り、予選6位の浅川啓大選手(兵庫・尼崎市立尼崎双星高)が、決勝を安定した内容で643を打って、2574で3位に食い込んだ。

女子 伏兵・稲福選手快走

稲福心衣奈選手が、「今回はレーンが自分に合っていた」と、サウスポーからガターすれすれの大外のラインを攻めて、1回戦から3回戦まで653、637、653と安定した内容で、トータル1943の1位で決勝に進んだ。女子では珍しい両手投げで、6月のレディース新人戦では、15歳でベストアマに輝きあっと言わせた森恵美選手(奈良・飛鳥未来高)が1867で2位につけ、森選手から19ピン差で番井琴音選手(北海道・札幌龍

谷学園高)が続いていた。

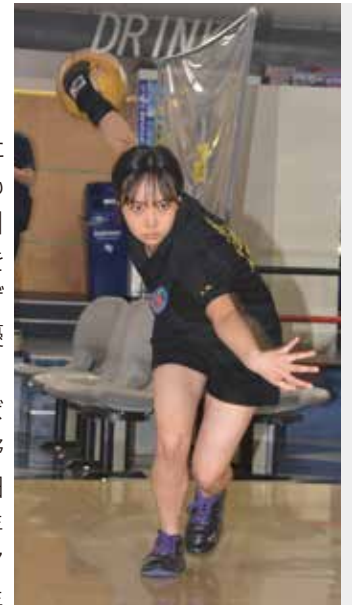
予選の上位20名が進出した決勝は、稲福選手が「少し点差もあったので楽しく投げられた」と振り返ったとおり、610を打ってトータル2553で危なげなく逃げ切り、最終学年で初優勝を飾った。

2位には決勝で680と伸ばした石田万音選手(兵庫・神戸野田高)が2466で入った。石田選手は中学選手権を2年、3年時に連覇していたが、予選を7位と出遅れたのが響いて、1年生での高校選手権制覇はならなかった。番井選手は決勝を

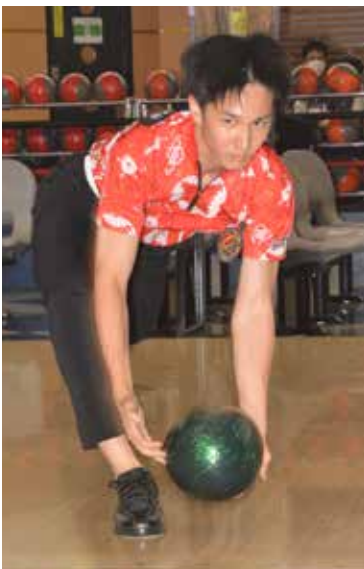


▲予選の貯金を守って優勝の稲福選手

▲優勝には届かなかったが、実力を証明した石田選手



▲予選2回戦からはすべて600アップで安定していた番井選手



▲優勝は逃したが、2位の座はキープした熊選手



▲最後の年を優勝で飾れなかったが、意地の3位の浅川選手

606とまとめたが、2454で予選と同じ3位にとどまった。